

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
37	川崎市立下沼部小学校	清水 弘彦

学校教育目標	今年度の重点目標
(知)よく考え、すすんで学習する子ども(やりぬく力) (徳)心豊かで思いやりのある子ども(ゆたかな心) (体)明るく健康な子ども(じょうぶなからだ)	I 新しい社会を創り出す能力や態度の育成に取り組む II 児童理解と人権尊重を大切にされた指導に取り組む III 現代諸課題、喫緊な課題に取り組む IV 開かれた学校づくりに取り組む

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 児童が安全・安心な学校生活を送るための指導	「あいさつ運動」を中心に、児童の側からの呼びかけ活動を効果的に行う。全校朝会や学年集会等であいさつの大切さに触れる。	児童主体の「あいさつ運動」により、誰にでもあいさつを交わすことができる児童が増えたが、より広く浸透していく必要がある。	児童だけでなく、保護者や地域が一体となり、あいさつの大切さが共有できるよう、児童と教職員が一体となって呼びかけていく。
2 児童が学び続けるために必要な基礎・基本となる知識技能の定着	かわさきGIGAスクール構想ステップ3のより一層の浸透をめざし、既習、他教科、他者につながるための情報活用能力の育成する。	各学年の実態に合わせ、計画的に活用することができている。児童は学習や活動問わず、日常的に持ち歩き、活用している。	学びに向かうための的確な活用方法を児童とともに追求していく。新たな活用方法については職員研修を通じて、指導に生かしていく。
3 支援教育コーディネーターを中心としたネットワーク型の支援体制	支援を要する児童についての情報は、担任だけが抱えるのではなく、支援教育コーディネーターを中心に全体で共有していく。	日々支援教育コーディネーターに情報が集まり、整理されたのち、ケース会議等を通じ、全体の共有が図られた。	教職員全体で情報は得られるようになったが、今後解決に向けて、よりスピード感のある共有の仕方を構築する。
4 児童や保護者とのさらなるコミュニケーションの構築	授業時間以外でも、児童とともに過ごすことで、児童の抱える悩みに気づく。保護者との積極的な情報共有に努める。	児童にまつわる小さな出来事にも教職員が積極的に把握し、保護者への話題提供につなげることが多かった。	善悪に関わらず、日常的な児童に関する情報を保護者と共有することで、児童の成長を見守る方向性を合わせていく。
5 効果的で機能的な学年会の運営	短縮時程(水、金曜日)を設定し、学年会を実施することで、情報交換、指導方法の工夫改善に努め、より一体感のある学年集団を形成する。	必要十分な時間を学年会の時間を確保したことで、学年内の情報も十分に共有された。以前にも増して職員間のコミュニケーションも活発になった。	次年度は月曜日を5時間授業とし、全体の会議等を月曜日に集約することで、より学年やクラスの作業時間を確保していきたい。
6 自らの力量を高めるための校内研究や職員研修の充実	初任者研修、教育実習の期間を有効に使い、自らの授業実践を公開し、積極的に協議することで、互いの授業力向上を目指す。	多くの教職員が互いの授業を見合う機会が得られた。また教職員自ら協議会を立ち上げ、互いの実践について耳を傾け合う機会となった。	次年度以降、勤務時間、休憩時間を確保しつつ、教職員の力量が最大限得られる研修となるように努める。
7 積極的な情報発信による家庭や地域との連携	PTA運営委員会、学校教育推進会議の場、またはミマモルメ等で、学校の様子を積極的に発信し、家庭や地域との連携を図る。	創立70周年記念式典に向けて、学校・家庭・地域それぞれが同じ方向性を持ち、連携を深めることができた。	連携する地盤が確立できたことを生かし、学習や活動の実践について、今まで以上に発信し、より一層の協力体制を築いていく。
8 幼保小、小中の連携を深め、小1、中1ギャップ解消	近隣の幼稚園や保育園だけでなく、近隣の小中学校とともに研修の場をつくり、それぞれの機関がより深く高め合える関係を醸成する。	保育園幼稚園とは「よっほいしょの会」、小中学校とは「3校連」として、互いの交流を深め、学びの大きな研修の機会を得た。	研修の様子は、保護者にも伝わり、より高い関心を学校に寄せていただいているので、より家庭地域の思いに応えられる学校を作り上げる。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> ・行事はもちろん、平日等に開催される授業参観に、より多くの保護者が来校している様子から、学校への関心の高さがうかがえた。 ・学校教育推進会議では、日常の取り組みを児童自ら充実したプレゼンテーション内容で伝えてくれたことに大いに感動した。 ・創立70周年記念式典では、教職員の熱意ある取り組みと児童の一致団結した姿を見て、より一層の関係性を築いていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA端末がより身近になり、学習活動だけでなく、委員会活動や係活動など、児童の必需品として活用される機会が多くなった。今後より適切な活用を目指し、教職員も保護者からの要望を受け止めながら推進していきたい。 ・創立70周年記念式典により築くことができた学校・家庭・地域三者のより深い連携となるよう、子どもの成長を願う成長を願う方向性を共有しながら情報発信に努めていきたい。